

花市場と花育アドバイザーの連携による花育活動 ～株式会社JF兵庫県生花と花育ネットワーク協会のタイアップ事業～

作成者：花育ネットワーク協会 代表 家城靖子

1 はじめる・・・からはじまる

花市場である株式会社JF兵庫県生花の「花育をバックアップしていきたい・・・」という思いと花育ネットワーク協会の「継続的に活動していきたい・・・」という思いが繋がることで始まった連携花育。

それまでも各々の立場で花育活動を行ってきたが、互いの目的、立場を理解・共有し、それぞれが出来ることを提案・協力していくことで、より深く効果的な花育活動を地元に着定・発展させることができるのではないかと期待が生じた。まだまだ周知されるには程遠い阪神地区の花育事情に一石を投じるとまではいかずとも、小さな雫を落とし、そこから波及していくことを願い、花市場との連携による花育活動が2013年秋（平成25年）手探りではあるが動き始めた。



JF兵庫県生花の吉田氏と岡氏と
花育ネットワークのアドバイザー

2 こべっ子花育応援プロジェクト・・・

出前花育授業 ～花と緑のキッズプログラム～

連携による花育活動をスムーズに運営していくために、花市場と当協会が実行委員会という体制を取り、学校園等へ出前花育授業を行うプロジェクトを立ち上げた。

題して「こべっ子花育応援プロジェクト」である。（株）JF兵庫県生花には花材提供をしていただくと同時に、生産地・流通等の講話を、花育アドバイザーが制作を、と各々の得意分野を担当し一つの花育授業を組み立て学校現場等に提案・実践していこうという取り組みである。案内パンフを制作し、25年度期限の全国花育活動推進協議会モデル校助成事業に取って代わることができる独自の仕組み作りを目指した。

また、花育の普及啓蒙という目的に沿えば学校授業以外や保護者にも活用できるように柔軟な実施要件とした。

2-1 こべっ子花育応援プロジェクト 活用事例（立ち上げ～26年度）

日程	対象場所	対象者	内容
25年10月31日 13:00～14:00	第10回神戸市PTAフェスティバル (於) 神戸ハーバーランドスペースシアター	神戸市内の園児・ 小中学校学生・保護者 100名	ヒバを使った クリスマスリースを作ろう
26年5月8日 10:45～11:30	神戸市青陽東養護学校	中学部 19人	保護者へありがとう 感謝の花アレンジを贈ろう
26年11月12日 14:00～14:45	学校法人西須磨幼稚園	年長児 48人	ヒバを使った クリスマスリースを作ろう
26年12月22日 10:40～11:45	神戸市立青陽東養護学校	高等部 1年生 52人	ヒバを使った クリスマスリースを作ろう
27年2月20日 10:00～11:30	神戸市立竜が台小学校	6年生 29人 保護者 16人	保護者へありがとう 感謝の花アレンジを贈ろう

事例① 花育ワークショップ

「Let's花育！森を感じよう ヒバで作るクリスマスリース」

- 日時：25年11月30日 13：00～16：00
- 会場：神戸ハーバーランド・スペースシアター
- 定員：100名
- 対象：幼稚園児～小中学生

第10回神戸市PTAフェスティバル
中学校PTA連合会体験ブースとして実施



神戸市PTAフェスティバルは神戸市立幼稚園PTA連合会、神戸市立小学校PTA連合会、神戸市立中学校PTA連合会、神戸市立高等学校PTA連合会、神戸市立養・盲学校PTA連合会の5校種が合同でPTA活動のPR、親睦、交流を目的として開催している。当日は幼児から保護者まで約2000人の来場者があり、連合会毎に各種体験コーナーを設け、親子で楽しんでもらうイベントである。

PTAという性格上、花育という活動を知っていただくのには絶好の場であり、「花育体験コーナー」を提案させていただいた。花育とは?・の説明から始まり会議を重ね、ご理解いただき中学校PTA連合会ブースにて実施するに至った。

事前準備

3時間の開催時間の中でできるだけ多くの子どもや保護者に参加してもらいたいとのことで100人分の材料を用意した。

座席は会場スペースの関係16席となり、入れ替えも考慮すると一人あたり20分程度で製作できるように、下準備を行うことになった。

黄金ヒバ（小枝）は、枝ぶりにかなりの個体差があるため概ね均等になるように調整し組み合わせをしておいた。

新聞紙で作るリースベース、リボンの整形、オーナメントのギフトボックスに両面テープを貼る作業は、イベント担当で分担し持ち帰り、当日持ち寄った。



提供して頂いた黄金ヒバ

当日の流れ

午前中に受付・テーブル・イス、看板等の会場設営・その他花材等の準備を行う。

持ち寄った飾りつけオーナメント等を100人分の小袋に分ける。

その後全体の流れの確認及び受付、誘導、製作の担当に別れ手順等の確認・打ち合わせを行う。

会場は混み合うことが予想され、行列を最小限にするため、整理券を配布した。

13時より、配布した100名分の整理券は35分で発行終了となる。

製作は13時30分より、随時入れ替え制で行い、15時30分には100人のリース作りが終了となった。

反省点と改善策

今回はより多くの子どもに参加してもらうために短時間で仕上げる必要があったこと、また順番待ちを避けるため、空席に随時入ってもらう参加形式をとった。そのため個々バラバラの開始となり、使用したヒバや木の実について観察する時間や感想を聞く時間、手入れの方法等を伝えきれてない部分が反省点としてあげられる。

参加の有無に関係なく保護者はヒバに興味をもたれた方が多くみうけられ、「この木（ヒバ）はどこで入手できるのですか?」「いくらぐらいしますか?」等の質問や「お友達と作ってみます」「大きいサイズに挑戦してみます」と関心の高い声が聞けた。「本物の緑に触れてもらう」というワークショップであり、この部分においては成果があったと思われるが、一過性のイベントで終わらないように、今一步踏み込み「心の栄養」としての花育の考え方もしっかり伝えて行くことが必要不可欠であると思われた。

上記の改善策としては開始時間を割り振った整理券を発行し、制作の時間を決め、通常の花育授業のミニ版として観察・説明の時間をとることで解消できると考えられる。また花育のリーフレットなどを配布することでも補完できると思われる。

今後の課題

学校授業等を通して子どもたちに伝える花育は、保護者にもその目指すところをご理解いただき日々の暮らしの中で子どもたちが振り返り、実感できる環境があつてこそ、結実していくものである。

そして、学校現場で花育授業を継続的に実施していく上で、保護者のお手伝いは必要になってくると思われる。

それゆえ、PTAなど保護者を対象とした花育体験を提案し行くことも今後の課題としてあげられる。



ヒバのリース
(木の実以外のオーナメントはシールを使用)



棒状にした新聞紙に輪ゴムを12本通し
さらに、リング状にしてリースベースを作る



周囲360度が開放スペースのため、パネルで動線をつくり、
混乱なく入れ替えができるように配慮した



ボードには、作り方の手順を貼りだした



ヒバ以外の飾りつけ材料は袋に入れて準備
整理券と交換で受付で選んでもらい、座席へ誘導



戸惑っている子どもたちには保護者や
イベント担当者が声がけをする

ヒバリースの製作手順



- ・基準棒（7cmにカットしたストロー）にあわせヒバを12本（輪ゴムの本数）切る



- ・葉先が同じ方向になるように輪ゴムに挟みながら一周する（中央から左右にまわしてもよい）
- ・新聞紙が見えているところは、さらにヒバを切り、追加する



- ・リボンを取りつけるモール先端は輪状にする
- ・カラマツ等の木の実も輪ゴムに引っ掛けて固定し、飾り付けていく

事例② 出前花育授業花育

保護者へありがとう！ 感謝の花アレンジメントを贈ろう

- 対象者：中学部 19人
- 所要時間：45分
- 指導者：花育アドバイザー 8名 教諭10名
- 実施場所：神戸市青陽東養護学校
生活単元学習の時間として実施



生徒の作品

<資材>

- ・給水スポンジ（○△□の刻印を施す※）
- ・洗面器
- ・発泡容器（両面テープ付けておく）
- ・うす紙
- ・木製のクリップ
- ・整形リボン（両面テープ付けておく）
- ・ありがとうシール+ワイヤー
- ・清掃道具（ゴミ袋、雑巾等）
- ・カラーシール丸型
- ・ラッピング袋
- ・カラーモール
- ・ハサミ（実施後本数を確認）
- ・花カット基準紙
- ・名前記入シール
- ・サインペン



手際よく出せるようにセットしておく

※花き研究所 望月寛子先生「脳機能回復プログラム」の手法参照

<花材>

- ・トルコギキョウ（1人4輪）
- ・ガーベラ（2色）（1人1本）
- ・スプレーカーネーション（1人4輪）
- ・カスミ草（適量）

※カスミ、トルコギキョウとその葉は、
そのまま挿せる長さ（10～12cm）に切り分け
しておく。

※ガーベラ・スプレーカーネーションは、机のスペースに合わせ、取り扱い長さにカットしておく
（25cm程度）



JF兵庫県生花に提供頂いたお花

<目的>

- *生のお花に触れる心地よさを感じる。
- *自分の好きな色のお花、ペーパー、リボンを選ぶことで、主体的に活動する。
- *器を作り、花を飾っていく作業を自主的に楽しみ、また達成感を得る。
- *花を持ち帰り飾ること、花を贈ること等、実際の生活の中に意欲的に活かしていく。

<配慮事項>

最初に見通しが立てるように、視覚で確認できるデモンストレーションを行う。
 集中できるように、資材・花材は使う物をそのつど机に出すようにする。
 常に慌てず落ち着いた態度、口調で対応するように心がける。

アドバイザーの心得

項目	効果等
常に笑顔で	安心感を与える。
口を大きく開ける	伝わりやすい
お腹に力を入れる	大きな声が出やすい、背後から声がけをしない。
全員に意識を向ける	手順の説明にとらわれない柔軟な対を心がける
声の抑揚をつける	ポイントはゆっくりと
禁止の言葉をいわない	(例) ×走りません → ○歩きます
短い文で指示	1フレーズ指示で混乱を避ける
言葉づかい	成人向けの話し言葉で接する

- ・上手な作品を作ることが目的ではない。
- ・出来ることを見つけ、できる方法を考えながら指導する。
- ・生徒たちが自主的に取り組んでいるかに意識を向ける。
- ・指示が分からなくて困っている様子だったら声をかけ、誘導する。
- ・指示と違っていても、その子なりに出来ていれば認める声がけをする。
- ・集中が途切れたり、取り掛かりにくい生徒には無理じいはせず様子を見て声がけをする。

<事前準備>

※学校側との打ち合わせ

- 実施にあたって、日時、内容の選定
- ハサミ使用の可否等、可能作業についての確認
- 生徒の人数、職員の人数を確認
- テーブル配置を確認・もしくは依頼
(テーブルの配置は通常の授業スタイルが望ましい)
- 水場の確認
- 控え室の確認
- 授業風景撮影許可について確認依頼



手順についての検討会

欠席者への対応について（完成品を預けるか否か）

保護者用プリントの配布依頼

★事前に手順書を確認してもらい、無理がないか職員とすり合わせを行う

※スタッフとの打ち合わせ

配慮事項等については、事前に学習会を開き生徒の特質・言葉掛け・対応方法等について認識を高めておく。

当日の手順・製作方法については、生徒が混乱なく完成度の高い作品を作れるように、シミュレーションを繰り返しながらアイデアを出し合い、最良の方法をさぐる。

※資材・花材の下準備

- ・ 給水スポンジへの刻印
- ・ 薄葉紙の中心目印、シール貼り
- ・ 容器の目印及び口元に両面テープ貼り
- ・ リボンの整形と両面テープ貼り
- ・ 花材の切り分け

カスミ、トルコギキョウとその葉は、そのまま挿せる長さ（10～12cm）に切り分けしておく。

ガーベラ・スプレーカーネーションは、机のスペースに合わせ、取り扱い長さ（25cm程度）に切っておく

花アレンジをつくろう

器づくり 10分



①薄葉紙を選び、中央に印をつける



②容器を裏返して中央に印をつけ
容器の周りに両面テープをはる



③両面テープのシールをはがす



④薄葉紙の中心と容器の中心●印を
重ねる



⑤もう一つの容器を上から
かぶせる



⑥上の容器を外すと薄葉紙が
下の容器につく



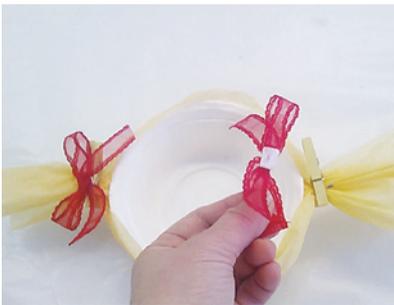
⑦容器を表に戻し、予め付けておいた赤いシールを合わせ握り持ち反対側も同じように握る



⑧木製のクリップで挟みとめる



⑨リボンを選ぶ



⑩リボンの裏面には両面テープを貼り、木製クリップに留める



⑦～⑩の作業を繰り返し反対側も仕上げる。

スポンジを給水させる 5分



①各テーブルに水を張った洗面器を用意する、スポンジを水面に浮かべ給水させる



②十分に給水したら、容器に入れる

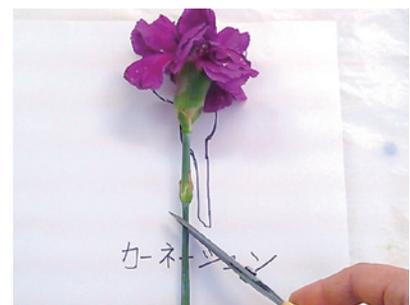
花選び、アレンジメント 10分



①花を選ぶ
ガーベラ1本 カーネーション4本



②切る長さを記した花カット基準紙を用意して、その上に花をおく



③基準紙に合わせて茎を切る

花を挿す

※花き研究所 望月寛子先生「脳機能回復プログラム」の手法参照



①花を挿す位置に記号の記しを付けておく、★印4箇所にも葉を押す



②●印にガーベラを押す



③■印4箇所にもトルコキキョウを押す



④▲印4箇所にもカーネーションを押す



⑤花と花の間にカスミ草を押す



⑥ピックを押して完成

反省点と改善策

器を包む薄葉紙の両端の処理として、「目印を合わせる」という具体的な方法をとったが、かえって混乱が生じた。

単純に「束ねる、握る」という表現の方が理解しやすいと思われた。

木製のクリップの中には、比較的バネが硬いものがあり、つまみにくい場面があり、事前に硬さの確認する必要がある。

スポンジの給水には興味を示す生徒が多かった。

手順どおりにスムーズにできる生徒がいた反面、いずれの作業工程においても数名は不得意・困難とする場面が見受けられた。この場合、担当教諭・アドバイザーの誘導やアシストにより取り組むことができたが、個々の生徒の実態をもう少し把握した上で、方法を考えることも必要であると感じた。花自体に終始興味を示さない生徒も数名見受けられたが、すぐ傍らに花があり、同じ花時間を共有することには意味があると思われる。



後日届いた生徒からの色紙

出前花育授業 保護者への配布手紙



26年度
こべっ子花育応援プロジェクト
出前花育授業

保護者の皆様へ

今日はみなさんに、季節のお花を楽しんでもらいました。
お家に持って帰られたら、ご家族の皆さんの目にとまるところに飾ってみてはいかがでしょうか。
お花があると、きっと笑顔が広がっていくことと思います。
お子様の頑張りにも、ぜひ声掛けをしていただければ幸いです。
吸水スポンジにお水を含ませています。指で触ってみて、乾いているようでしたら、お水をあげてください。
切り花ですが、大切にお世話をしても綺麗に咲いてくれる期間は限りがあります。
「短い間だったけど、お花があつて気持ちよかつたね」「また、飾ろうね」などとお話してください。「こちよく花(自然)と関わった時間」としてお子様の記憶にのこり、心豊かな成長の一助となってくれることと願っております。

花育活動について

花育とは、お花の美しさや気持ちよさを実感し、お花を通して思いやりや感謝の気持ちを育んでもらうことです。
そして、何よりもお子様一人一人がお花に触れた時の気持ち、創造する力を大切にして活動しています。

☆こべっ子花育応援プロジェクト

神戸市内を中心に学校施設園等に出前花育授業としてお伺いさせていただきます。

《花材協力:株式会社 JF 兵庫県生花》

こべっ子花育応援プロジェクト実行委員会

神戸市須磨区飛松町3-3-4

(花育ネットワーク協会※ 内)

TEL 078-734-0208

<http://hanaiku-net.com>

e-mail info@hanaiku-net.com

※(全国花育活動推進協議会登録団体)

今後の課題

特別支援学校等での花育は、その性質上とても有意義なものである。

生活単元学習のなかで継続的・体系的な計画によって展開していくこと、また就労支援（職業訓練）としての位置づけで花育授業が成り立つように、アドバイザーの資質向上、カリキュラム、方法等さらなる工夫が必要であると思う。

3 行政・市場・花育アドバイザーとの連携へ・・・

兵庫の花づくり推進協議会 花育事業 「花と緑のふれあい教室」

国産花きイノベーション推進事業（補助金活用）を受けて実施する花育事業「花と緑のふれあい教室」平成26年度の実施16枠のうち、株式会社JF兵庫県生花が担当する4つの幼稚園について、アレンジ指導を花育ネットワーク協会が担当した。

実施に当たっては、兵庫県農産園芸課、株式会社JF兵庫県生花、花育ネットワーク協会、そして実施団体（幼稚園）の4者で打ち合わせ検討会を行うことから始まる。ここにおいてようやく行政、卸売市場、花育アドバイザーの連携による花育活動が実現するに至った。これは、花育活動を継続的に発信し、定着させていくために必要不可欠な人材・資金・資材の連携がおぼろげながらも見え隠れしてきたようで、花育実践者の立場としてはとても心強くありがたいことである。

3-1 平成26年度「花と緑のふれあい教室」担当園一覧

日程	対象場所	対象者	内容
26年10月27日 10:30～11:30	神戸市中央区 山手幼稚園	園児78名+保護者30名 (年少22 年中28、年長28)	プランター寄せ植え 花壇植え
26年11月1日 10:30～11:30	兵庫県西宮市 光明幼稚園	年長127名+保護者25名	プランター寄せ植え
26年11月12日 10:00～12:50	神戸市垂水区 愛徳幼稚園	①親子18組 10:10～10:50 ②親子17組 11:10～11:50 ③親子15組 12:10～12:50	黄金ヒバの クリスマスリース
26年12月1日 10:40～11:45	兵庫県宝塚市 めぐみ幼稚園	園児128名+保護者 (年少22、年中27、年長28)	クリスマス キャンドルアレンジ



事例紹介①

100周年おめでとう!幼稚園をお花でかざろう

「花と緑のふれあい教室」実施概要

項目	内容	備考
実施団体名	山手 幼稚園	
実施日 時間	平成26年10月27日(月) 一部 10:30~11:15 二部 11:20~11:35(年長28名のみ花壇植え付け)	資材搬入(兵庫県生花・岡氏) 10月24(金)時間調整中 ・開催日9:00に車2台 園庭ジャングルジム横に並列駐車。 ・予備日:10月29日
参加人数	年少22名 年中27名 年長28名 (合計園児77名) 希望保護者(20名程度)	年少・年長 3グループ 年中 1グループ
活動内容	・100周年を迎えるにあたって、園庭を飾る (プランターへの寄せ植え)	
活動目的	・生のお花に触れた時の心地よさを感じてもらう。 ・お庭がなくてもプランターを使ってお花を楽しむことが出来ることを体験する。 ・お花でいっぱいになったことで感じる気持ちを大切にし、お客様をお迎えするお花は大切な役割があることを伝える。 ・お花のお世話を通して命あるものを育てる事を体験する。 ・親世代もお花に触れる事が少なくなっているのので、子供と一緒に体験していただく。	
幼稚園で 用意するもの	65型プランター 7個 + (65型プランター1+長楕円プランター4) 球根80ヶは園で用意(私立幼稚園連盟より寄贈) ジョウロ(7ヶ有り)・名前札	

<資材>

- ・プランター(ミニ・65型)
- ・鉢底ネット
- ・鉢底石
- ・網ネット(台所用)
- ・培養土
- ・土入れ(プラカップ大・小)
- ・園芸シート
- ・ジョウロ
- ・苦土石灰
- ・バーグ堆肥

<花苗>

- ・パンジー
 - ・チューリップ球根
 - ・ストック
 - ・アリッサム
- 花壇用 ※花壇は4箇所とも土壌改良が必要だったので、実施2週間前に苦土石灰バーグ堆肥の鋤込み作業を行った。

～お花のお家を作ってあげよう～ プランター（65型）にお花を植えよう（4人グループ）

花の話 3分



市場の方にお花について教えてもらおう

- ・お花の名前について
いろいろなお花の名前を覚えよう
- ・お花の産地について（地図を見せながら）
地元神戸ではお花をたくさん作っているよ
- ・お花の苗について
農家（生産者）の人が優しく種から育てた苗だよ
- ・今からはみんながお世話してステキなお花を咲かせよう

制作手順の説明5分

①鉢ぞこネットを敷いて、ナメクジさんの侵入を防ごう

②ゴロゴロ石を敷いてビシャビシャ水たまりを防ごう

1人・・・大カップ1杯

③栄養のはいった、ふかふかの土を入れよう

1人・・・大カップ3杯

④お花の苗を選びに行こう

1人・・・1苗

⑤お花を黒い容器から出してあげよう

⑥お花をぶつからないように、ゆったり置いてあげよう

⑦お花の周りに土を入れて倒れないようにしてあげよう

1人・・・大カップ2杯

⑧球根を植えてあげよう。

1人・・・1ケ



⑨球根の周りにふかふか土をかぶせてあげよう

1人・・・大カップ2杯

⑩土の量を花育アドバイザーに確認してもらおう

土を入れてあげよう

⑪お花の根本の土を軽く押さえてあげよう。

素敵な「お花のお家」の完成です



植え込み 20分



年中児は4人ひと組で作業



花壇苗はお気に入りを選びました



保護者・未就園児も参加

プランター移動・灌水 5分

①プランターを並べて幼稚園を素敵にしよう

②大きく育つように、お水をあげましょう
話しかけながらお世話してあげるとお花もうれしいね



優しく、丁寧に灌水作業

写真撮影→お片付け→整列

※上記記載の鉢底石・土入れ回数は使用するプラスチックカップ、プランターサイズ
苗の大きさや 1つのプランターで作業する人数などによって
異なるため、事前に確認しておく必要がある。

反省点と改善策

年長年少組は南園庭、年中組は北園庭で分かれて実施。約20人の保護者の参加・見学があり、園児とともに植え込みをしていただいた。花の知識、植え込み作業、園庭へのプランター設置、灌水、お手入れの話と、一連の流れが実施でき、より愛着が持てたと思われる。

進行の反省点としては、年中組が予定時間より7分ほど遅れてしまった。

鉢底石をネットに入れるのに意外と時間がかかった。ミニプランターが小さく（浅く）、また球根が大粒であったため、根付きに不安が残った。65型プランターは幅広タイプであったため、培養土が不足気味であった。

終了後、スタッフで土の充填をおこなった。

上記反省点は事前確認で解消できる。

今後の課題

活動後の感想は園、園児、保護者にアンケートを依頼しているが、その後の花の成長やお世話の様子など、子どもたちの花への関わりを後追いできるように、定期的なコンタクトを取る計画を盛り込む必要がある。

花育を継続したい、新たに取り入れたいという相談窓口としての機能を確立していくためにも有効である。

成長日記・観察日記などを渡しそれを発表する場を設定する。お絵かきや作文コンクールなどを関連付けて企画し、ホームページや業界新聞、イベントなどで発表・展示するというような一連の流れの中で花育体験を位置づけることにより、子どもたちにとってもより深く心に残る体験となり、花緑や自然への興味を持つ機会が増してくるであろう。

「花と緑のふれあい教室」が一過性のものではなく、活動の糸口となるように、行政、市場、実践者が知恵を出し協力体制で取り組んでいくことが花育を普及・定着させていく近道だと思われる。

今後も引き続き、以上のことを踏まえ実践していくことが課題である。

事例紹介② 神戸市愛徳幼稚園

親子のつどい クリスマスリースを作ろう



徳島の黄金ヒバ
兵庫県産のカーネーション



ケニア産のヒペリカムにビックリ



テーブルセッティング



リースにヒバを挿しながら一周



テーブル毎にアドバイザーが進行



テラコッタ付クリスマスリースの完成

事例紹介③ 兵庫県宝塚 めぐみ幼稚園

サンタの隠れ家
クリスマスキャンドルアレンジを作ろう



カーネーション・ヒペリカム
黄金ヒバ



切り分けの仕方を実物で説明



黄金ヒバを挿していく



お花を挿していく



木の実・プレゼントも飾る



ローソクのようなゆらぎのLEDライト